

令和 2 年 5 月 27 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15K03376

研究課題名（和文）日本のリカード研究の独自性と多様性に関する研究

研究課題名（英文）A Study of Characteristics and Diversity of Ricardo Studies in Japan

研究代表者

福田 進治（FUKUDA, Shinji）

弘前大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：00322925

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、スラッフア編『リカード全集』刊行（1951-73）以降の日本のリカード研究を検討することを通して、日本のリカード研究者たちがスラッフアのリカード解釈を批判しながら、労働価値理論の役割を基礎とするリカード解釈を確立し、独自の貢献を果たしてきたことを示すとともに、同じ時期、日本の研究者の中にも、スラッフアの解釈または新古典派の解釈に近いリカード解釈を主張し、顕著な貢献を果たした者もいたことを示し、これらを踏まえて、欧米のリカード研究には見られない日本のリカード研究の独自性と多様性を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、日本のリカード研究と欧米のリカード研究の間では、理論的な交流が必ずしも活発でなかったため、日本の研究者たちの独自の研究成果が欧米の研究者によって検討される機会は多くなかった。そこで、本研究では、日本のリカード研究の独自の立場と独自の貢献を明らかにすることを通して、日本のリカード研究の存在意義を示すことを目指した。こうした取り組みは、日本のリカード研究と欧米のリカード研究の異同を明らかにするとともに、両者の間の交流をより活発にすることを通して、リカード研究のさらなる発展につながるものと思われる。

研究成果の概要（英文）： In this study, I examined the Ricardo Study in Japan after publication of <Ricardo Works> (1951-73) edited by Piero Sraffa. As a result, I showed that Japanese Ricardian scholars criticized Sraffa's interpretation of Ricardo, established their interpretation of Ricardo based on the role of the labour theory of value, and have carried out their original contribution. In addition, I showed that, in the same period, several Japanese scholars claimed their interpretation of Ricardo which were near by Sraffa's or Neoclassical interpretation of Ricardo, and carried out remarkable contribution. Based on these, I clarified characteristics and diversity of the Ricardo Study in Japan which were different from the Ricardo Study in the West.

研究分野：経済学史

キーワード：経済学史 古典派経済学 リカード

1. 研究開始当初の背景

スラッファ編『リカード全集』刊行後、欧米の多くのリカード研究者はスラッファのリカード解釈を支持しながら、リカード研究の新しい潮流を形成してきた。同時に、彼らはスラッファの解釈に批判的な研究者を強く批判し、激しい論争を引き起こしてきた。これに対して、日本の多くのリカード研究者はスラッファの解釈を批判しながら、リカードの労働価値理論の発展過程を綿密に検討し、独自のリカード解釈を生み出してきた。しかし、主として言語上の問題により、日本のリカード研究の成果が欧米の研究者たちに検討される機会は多くなかった。このことは、国際的な学術研究の発展という視点から見たとき、リカード研究にとって大きなマイナスになっていた。こうして状況を踏まえて、報告者は前回までの科研費研究において、日本のリカード研究と欧米のリカード研究の比較検討に取り組み、日本のリカード研究者が独自の立場から独自の貢献を果たしてきたことを明らかにしてきたが、こうした研究も道半ばであった。とくに日本のリカード研究者がリカード研究に取り組んだ内的要因の解明、日本の経済理論家(非主流派のリカード研究者)によるリカード研究への貢献の検討、近年のリカード研究史の研究を踏まえた日本のリカード研究と欧米のリカード研究の比較検討が不十分であった。こうした課題をクリアするために、従前の研究を引き継ぎつつ、日本のリカード研究の検討をさらに押し進めることが必要となっていた。

2. 研究の目的

本研究では、上記の課題をクリアし、日本のリカード研究の検討をさらに押し進めるために、以下の3点を明らかにすることを目指した。

(1) 日本の主流派のリカード研究の貢献とその意義：従前の研究を引き継ぎ、羽鳥卓也、中村廣治、千賀重義たちに代表される日本の主流派のリカード研究者によるリカードの労働価値理論の研究に関する検討をさらに推し進め、それらの意義を明らかにすることとした。とくに日本のリカード研究のあり方を規定してきたリカード研究者たちの研究方法や内的要因を解明することによって、日本のリカード研究の特色とその功罪をより明確に示し、これらを通して、日本のリカード研究の「独自性」を鮮明にすることを目指した。

(2) 日本の非主流派のリカード研究の貢献とその意義：新たに、森嶋通夫、菱山泉、根岸隆たちに代表される日本の経済理論家＝非主流派のリカード研究者によるリカード研究への貢献を検討することとした。彼らは主流派のリカード研究とは異なる独自の理論的立場から、リカードの経済学の検討に取り組み、スラッファの解釈または新古典派の解釈に近いリカード解釈を主張しながら、多くの研究成果を生み出してきた。こうした非主流派の研究を主流派の研究と比較検討しながら、日本のリカード研究の「多様性」を明らかにすることを目指した。

(3) 日本のリカード研究と欧米のリカード研究の異同と各々の特色：以上の検討を踏まえて、日本の主流派のリカード研究と非主流派のリカード研究を比較検討した上で、これらを欧米のリカード研究と比較検討することとした。これらの検討を通して、欧米のリカード研究に見られない日本のリカード研究の「独自性」を明らかにするとともに、欧米のリカード研究と共通する要素をもちながらも依然として独自性をもつ多様なリカード研究が少なからず存在するという日本のリカード研究の「多様性」を明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

本研究は報告者個人による文献的・理論的研究である。そこで、研究課題に関連する資料・文献の調査・収集、その内容の歴史的・理論的検討に継続的に取り組み、適宜研究成果をまとめ、積極的に報告・議論の機会をもち、研究内容を推敲することに努めた。同時に、国内外の学会・研究会等の多様な研究組織を利用して情報交換・研究交流に務めるとともに、分担者として参画する科研費研究などの多様な共同研究に参加することによって、相対的視点を確保することに努めながら、本研究の発展に努めた。

4. 研究成果

(1) 従前の研究を引き継ぎ、羽鳥卓也、中村廣治、千賀重義たちに代表される日本の主流派のリカード研究者によるリカードの労働価値理論の研究に関する検討を推し進めた。そして(前回の科研費研究で羽鳥のリカード研究の検討を終えていたため)中村のリカード研究に焦点を当て、中村が羽鳥のスラッファ解釈批判から影響を受けてリカード研究に取り組み、中村自身もスラッファの「穀物比率論」解釈を批判したこと、リカード『経済学原理』の理論構造に関するマルクスの剰余価値理論の構造に依拠した解釈を提示したこと、リカードの労働価値理論の成立過程に関する生産費説の論理に基づく解釈を提示したこと、リカードの賃金論の構造に関する価格調整機構の特性に注目する解釈を提示したことを示した。こうして中村が羽鳥のリカード研

究から影響を受けながら、羽鳥以上にリカードの経済学に関する理論的研究を深める中で、独自のリカード解釈を生み出したことを示し、これらを通して、中村が日本の主流派のリカード研究者の中でもとくに顕著な貢献を果たしたことを明らかにした。

(2) 報告者自身による羽鳥卓也のリカード研究の検討と中村廣治のリカード研究の検討を踏まえて、羽鳥と中村の関係、両者のリカード研究の比較検討に取り組んだ。そして、中村が羽鳥のスラッファ解釈批判から影響を受けて、リカード研究に取り組むようになったものの、次第に独自のリカード研究を深めていくようになった経緯を明らかにした。すなわち、羽鳥は、リカードの経済学の現代的意義と歴史的事実の両者を重視しながら、マルクスの剰余価値理論を支持する立場をとり、スラッファ解釈批判を最大の動機としてリカード研究に取り組んだが、中村は、リカードにより深く内在し、歴史的事実をより深く追求する立場をとるようになり、マルクスの剰余価値理論の立場から次第に離れていき、体系的な独自のリカード解釈の構築を目指すようになった。これらの検討を通して、スラッファのリカード解釈の影響に始まり、羽鳥の論争的なリカード研究を経て、中村の体系的な独自のリカード解釈が生まれ、これらがその後の日本のリカード研究の方向性を規定することになった次第を明らかにした。

(3) 他方、森嶋通夫、菱山泉、根岸隆たちに代表される日本の非主流派のリカード研究者によるリカード研究への貢献を検討した。とくに(前回の科研費研究で森嶋のリカード研究の検討を一定程度行っていたため)菱山のリカード研究に焦点を当て、菱山がケネーやスラッファの研究者という立場からリカード研究に取り組み、独自のリカード解釈を生み出したことを明らかにした。すなわち、菱山は、理論的貢献を重視する立場をとると明言しながら、リカード『経済学原理』を検討し、ケネーに由来する循環的生産過程の視角とリカードの価値と分配の理論の図式を統合したものがスラッファ体系であると主張し、それを「リカード理論の現代版」と呼んだ。これらは日本の主流派のリカード研究には見られなかった理論的貢献を重視する独自のリカード解釈であり、同時に、欧米のスラッファのリカード解釈とも同一視することができない菱山独自のリカード解釈である。これらの検討を踏まえて、菱山のリカード研究が日本の非主流派のリカード研究者による顕著な貢献であることを明らかにした。

(4) 以上の検討を踏まえて、日本の主流派のリカード研究と非主流派のリカード研究を比較検討した。まず、日本の主流派の貢献として、羽鳥卓也、中村廣治、千賀重義のリカード研究を再検討し、彼らが欧米のリカード研究と対照的に、スラッファのリカード解釈の批判を契機にリカード研究に取り組んだこと、リカード体系を「労働価値理論に基づく分配と蓄積の理論」と把握したこと、歴史的事実を追求することを重視したことを再確認した。また、日本の非主流派の貢献として、菱山泉、森嶋通夫のリカード研究を再検討し、菱山がスラッファがリカードの経済学を再構成したことを評価したこと、森嶋がリカードの経済学を一般均衡理論の先駆者として位置づけようと試みたこと、これらの解釈が相互に対立するとはいえ、両者がともに現代的意義を評価しようとしたことを再確認した。これらの検討を踏まえて、日本のリカード研究が独自の立場から欧米には見られない独自の貢献を生み出してきたこと、同時に日本のリカード研究の内部にも多様な立場と多様な貢献が認められることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 福田進治	4. 巻 7
2. 論文標題 日本のリカード研究の独自性と多様性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文社会科学論叢	6. 最初と最後の頁 139-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田進治	4. 巻 27
2. 論文標題 菱山泉『リカード』の再検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 マルサス学会年報	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福田進治	4. 巻 35
2. 論文標題 中村廣治のリカード研究	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人文社会論叢 社会科学篇	6. 最初と最後の頁 53-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福田進治	4. 巻 57 (1)
2. 論文標題 [書評] Faccarello, G. & Izumo, M. (eds.), The Reception of David Ricardo in Continental Europe and Japan, Routledge, 2014	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 経済学史研究	6. 最初と最後の頁 102-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 福田進治
2. 発表標題 日本のリカード研究の独自性と多様性
3. 学会等名 第30回経済学史学会東北部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下平裕之・福田進治
2. 発表標題 テキストマイニングの経済学史への応用と事例
3. 学会等名 第4回「戦争と平和の経済思想」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田進治
2. 発表標題 菱山泉のリカード研究
3. 学会等名 第60回経済思想研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田進治
2. 発表標題 菱山泉『リカード』の再検討
3. 学会等名 第27回マルサス学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福田進治
2. 発表標題 中村廣治と日本のリカードウ研究
3. 学会等名 第34回リカードウ研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 福田進治
2. 発表標題 中村廣治のリカード研究
3. 学会等名 第53回經濟思想研究会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考